

# あそぶ・まなぶ・語る



周防大島町総合体育館陸上競技場 / 日本ハワイ移民資料館  
八幡生涯学習のむら / 宮本常一記念館

第38号  
2022年5月



## 宮本常一関係資料 県指定文化財へ



宮本常一記念館

当センターは平成11年の受け入れ以来、宮本常一の資料を整理してきました。資料は大きく分類して以下ようになります。

- ・写真（ネガフィルムなど約10万点）
- ・蔵書（約2万点）
- ・文書資料（現5897点）



3月4日、このうちの文書資料414点が山口県の有形文化財として指定されました。この414点は、宮本が調査地に行つて現地の人からの聞き書きをまとめたノートなど、調査に関した資料が中心となっています。周防大島をはじめ、萩市の見島、長崎県の対馬ほかたくさん地域でおこ

なつた聞き書きや古文書を筆写したものの、宮本本人によつて多くの情報が書き込まれた地図などが含まれる資料群です。その中には著書『忘れられた日本人』（昭和35年、未来社）に出てくる周防大島や対馬の話の元となつた調査ノートも含まれています。ノートをみると聞き書きは話に錯綜がなく、聞いた項目が整然とまとめられており、宮本が聞き上手かつすぐれたフィールドワーカーであつたことがわかります。彼の調査の実態と当時の調査地の実情をも知れる資料といえます。

調査を元にした著作原稿も今回の指定となつており、『日本の中央と地方』や『私の日本地図』シリーズのものが含まれています。ほか指定されたものでは詩集・歌集があります。宮本の原点ともいえる郷里周防大島を題材としているものが多く、彼の脳裏には絶えず島の原風景があつたことがわかります。

「宮本常一の民俗調査の実態とその過程を知るうえで重要、かつ詩集や歌集は民俗学者ではない別の側面を理解するうえで極めて重要な原資料」との評価を山口県文化財保護審議会からいただきました。今回の指定は宮本常一関係資料のごく一部で、残りの資料群の追加指定に向けた取り組みをすすめていきます。将来的には国の重要文

化財指定を目指します。今回指定された資料は一部展示室で公開しておりますので、関心がございましたらお立ち寄りください。（徳毛）

### ■新刊紹介



このたび、『宮本常一 農漁村採訪録24 下北半島調査ノート(3)』（1000円）を刊行しました。本書は青森県下北郡佐井村を対象とした調査ノートを書きおこしたものです。この調査は

昭和38・39年（1963・1964）に九学会連合下北総合調査の一環としてなされたもので、宮本が行つた聞きとり調査をこれに同行した田村善次郎氏によつてまとめられたものです。22巻よりつづいた下北半島の書きおこしも本書が最後となります。

佐井村は下北半島の西端に位置する村で、海に面しているものの平地が極端に少なく、大部分が山林によつて占められていました。漁業に加え、そこに産するヒバ（南部檜）は建築用材として利用価値が高く、古くから盛んに伐出されてきました。本書では村民が何によつて生計を立て、いかにして生きたのかを知ることができます。

【お問い合わせ】0820・78・2514



## 総合体育館でリフレッシュ 誰でも楽しくスポーツを！



● 1 時間ごとの料金表 ● ※町外の方のご利用は倍額になります

	9～17 時	17～21 時	延長料
フロア 1/3 利用	¥ 330	¥ 390	¥ 490
フロア 1/2 利用	¥ 490	¥ 590	¥ 730
フロア 2/3 利用	¥ 660	¥ 790	¥ 990
フロア全面利用	¥ 990	¥ 1,180	¥ 1,480

気持ちのいい汗を流して心も体もリフレッシュ！ 総合体育館は友達、ご家族、個人といずれも利用出来ます。

アリーナでは2020年1月に安全性、競技性、衝撃吸収能力に優れた床材にリニューアルしました。新しくなったフロアで健康増進や競技

力の向上に活用してください。バドミントン、バレー、卓球等の道具を無料で貸し出ししております。

毎週、卓球やエアロビクスなどのサークル活動も行っております。初心者の方もお気軽にご参加ください。このほか、トレーニングルームや会議室もご利用いただけます。健康増進ならびにスポーツやコミュニケーションの場としてぜひご利用いただければと思います。地域と共に在る体育館として、皆様のご利用をお待ちしております。

利用料は上表のとおりです。体育館の部分利用も可能です。ご参照ください。詳しくはお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ】

0820・78・2512

【ホームページURL】

<http://sports-oshima.com/>

## 町内民具 整理事業

この事業は、町内各地区に点在する資料館や保存庫の民具を整理し、統一して管理できるようにすることを目的としています。

宮本常一は晩年、町民を指導する形で民具収集活動をはじめました。これがきっかけとなって周防大島ではその後も収集が続けられ、現在では山口県の自治体の中でも周防大島町が有数の民具保有点数を誇ります。民具は集められた地域の特徴を表すものです。東和収蔵庫の「周防大島東部の生産用具」や久賀の「諸職用具収蔵庫」にある民具は国の指定をうけた重要有形民俗文化財となっています。こうした民具を有効活用していくために本事業をすすめています。



【写真＝旧久賀歴史民俗資料館の民具整理】



【写真＝せとうち民俗館とうわ床の補強】

民具の活用には目録と保管場所が大事です。民具収集は町村合併前の旧4町時代からおこなわれており、保存施設も旧4町単位であります。これら目録の一元化やデジタル化をおこなうこと。建物の現状を確認し、よりよい施設への移転を含め検討しています。これによって、民具利用に便利な体制を整え、将来的に教育や研究に役立てるようになります。

昨年度は、久賀中津原にあった旧久賀歴史民俗資料館の保存庫解体に伴う民具の移転と整理を行いました。町文化財保護審議会委員立ち会いのもと、整理方針を決め、保存すべきものを選別していきました。

ついで現在は、小泊にある「せとうち民俗館とうわ」の民具整理にあつていきます。これも建物の劣化した箇所があり、民具を緊急に移動させたうえで劣化場所の補強などをしつつ進めています。(徳毛)



## 活気の戻った 資料館



日本ハワイ移民資料館

東京のまん延防止措置が解除された3月27日(日)、東京大学の学生32名(一年生)が来館されました。英語の他に中国語の勉強のため、春に台湾で研修を行う予定でしたが、コロナ禍により急遽予定を変更し、歴史的に台湾と交流の深い山口県への旅行となったそうです。

学生のみなさんは平成14(2002)年生まれで、ハワイ移民のことはほとんど知らないとのこと

とでした。私たちはこの中の一人でも多くの人に移民について興味を持ってもらい、将来的な移民研究者への糸口になればと思う気持ちで移民の歴史、資料館の建物、建築主の福元さんについて説明をさせていただきました。

館内の大きなハワイ諸島の地図を見て、「僕はハワイ島生まれで、2歳まで住んでいました。祖母は台湾出身です」という学生さんがいました。「それは知らなかった」という引率の先生も加わり、質問が続きました。これをきっかけに彼が興味を持ってくれるかな、と思ったりしました。このようにハワイは国際交流の地といえます。先人の足跡の事例を知って今後に生かしてもらいたいです。

館内案内は約1時間にわたりましたが、大学生の皆さんたちの明るい声と笑顔が資料館へ春を運んでくれたような、そんな楽しいひと時となりました。見学後は、玄関口で入館記念の写真一枚を収めました。この後は、宮本常一記念館を訪問されたようです。

当日はその後10人のご家族、15人

のサイクリング仲間と次々にご来館がありました。久しぶりに合わせて64人ものお客様をお迎えし、賑やかな一日の資料館でした。コロナが収束し、国内の方だけでなくハワイやカリフォルニアなど海外からの団体のお客様にも、以前のように制限なくお迎えできる日常が一日も早く戻って来ることを願っています。(砂田)

## 『芸備地方史研究』 宮本常一特集を掲載



宮本常一記念館

このたび芸備地方史研究会で発行されました「芸備地方史研究」319号では、「宮本常一と芸備地方」と題した特集が組まれ、当センターも協力いたしました。

同会は広島県を中心としたものですが、地方史への関心の大きかった宮本は会員と交流があり、いくつか寄稿もしています。導入部ではこの宮本の寄稿をとりあげました。いず

れの文章も郷土研究のあり方を論じており、広島だけに限った話ではなく、自分たちの所属する地域社会をよりよく知るための方法論や、郷土とのつながり方を提言していただきました。地域を考えるうえで、今でも参考となる意見です。

ほか「宮本写真を読む」として、宮本が撮った広島の写真を地域やテーマごとに分けて各研究者が調査した論考があります。服飾史・宮島・尾道・芸予諸島・鞆の浦・可部線沿線とあり、いずれも被写体や景観の変化とその背景にあったものなど、さまざまな切り口で分析し、昔の写真を活用した学びを見ることが出来ます。「宮本資料の活用」では、宮本の写真に加えて彼の残した資料を使った企画展を紹介しています。当館の展示と、広島県三原で行われた宮本と関係の深い鮎本刀良意氏を取り上げた展示の二つの記録です。

ご購入のほか、関心がございましたら下記へご連絡ください。

【お問い合わせ】

Email: geishi@hiroshima-u.ac.jp  
(芸備地方史研究会)

※在庫切れの場合はご了承ください。





一枚の古写真

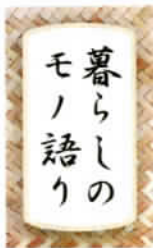
旧東和町下田のミカン選果場は現在の山口銀行東和支店の駐車場のあたりにありました。この頃は集落単位でミカンの集荷場があり、そこから島外へと運ぶために選果場へと集められました。今と違ってダンボールではなく木箱が主、トラックではなく船便にて出荷する時代でした。木箱に詰める作業は農協の職員、アルバイトの人が集まってする共同作業で、出荷シーズンである年末年始



【写真=下田のミカン共同選果場 昭和 33 年 1 月 8 日】

にかけてはおなじみの光景でした。「上手な詰め子がおつて、箱を開いたら少し山になるような積み方をしとつた」とか「夜業といつて、繁忙期の出荷に間に合わせるために夜を通したこともあつたんよ」などの思い出が聞かれます。

田んぼにミカンを植えることが島全体の風潮となっていたのがこの頃で、今では県内のミカン生産量の 80% を占めるまでになっています。選果場は周防下田のバス停近くの埋め立て地へと移り、近年の統廃合で解体されました。現在、ミカンは久賀の選果場に集められます。ベルトコンベアに乗せられて光センサーによって見た目・大きさ、糖度や酸味、傷の有無などをチェックされ、さらに検査員の目による確認を経て、それぞれダンボールへと振り分けられています。(徳毛)



暮らしのモノ語り  
イソカゴ

六万点の民具から…

貝などイソのものを採りに行くときに持っていくカゴである。大きさはさまざまだが、このイソカゴは口

径約 29 cm、カゴの高さ約 25 cm で中央が膨らんだ形をしている。一見すると竹で編んだ普通のカゴだが、よく見ていくと使い勝手を考えた工夫がこらされているのがわかる。まず、カゴはきっちり編まれているが、のぞいてみると底は目が粗く、水はけよく作られている。また、足をつけることでより水が切れやすい。上か



ら水をかけて中のものを洗うこともできる。使い勝手のよさとともに丸みをおびたやさしい形からは美しさも感じる。

周防大島の海は遠浅で、潮が引くと広大な干潟やイソが現れた。特に潮の干満が大きい大潮の日の潮干狩りは島の人々の楽しみでもあった。3月3日のひなの節句頃はイソであるそふのによい季節になる。旧東和町では3月4日は花散らしともイソあそびともいって一日休む風習があっ

た。下田付近では若者たちが山かいソへいって遊んだといわれる。

昭和 40 年代頃は潮干狩りの解禁日が設けられており、その日以降に掘ることができた。浜ではアサリのほかミルガイやクロガイも採れた。ミルガイはおいしくて寿司ネタとして喜ばれた。バカガイは殻が薄くて割れやすい。砂にもぐるのが早いので、子どもたちは

貝と競争するようにして掘った。マテガイは細長く、貝の穴に塩を入れるとピュッと飛び出してくるのが面白かった。掘った貝は家に持ち帰り蒸し焼きにしたりして食べた。

現在は埋め立てがすすみ、かつて貝掘りを楽しんだ浜は埋め立てられ、道路や公共施設が建つ。広がった干潟もずいぶん少なくなり、昔の面影を想像するのは難しくなった。しかしながら、イソカゴの存在は干潟とくらしが親しかったことを教えてくれる。まさにイソの香りがする道具である。(古賀)